



2026年 2月16日  
第153号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集 情宣 担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## 横浜地本第30回定期委員会開催！



横浜地本は2月15日、かながわ労働プラザにおいて第30回定期委員会を開催し、スローガン、運動方針を含め、2026 JR総連春闘勝利に向けて全組合員でたたかい抜くこと、過半数代表者選勝利に向けてたたかい抜くこと、安全で安心して働ける健全な会社を取り戻すためにブレずにたたかい抜くこと、全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認しました！（詳細は次号以降）

### 委員会スローガン

- 現場の努力に報いない経営姿勢と、社内世論を下支えする社友会に立ち向かい、過半数代表者選勝利！JR総連に結集する仲間と共に、統一要求・統一闘争で2026JR総連春闘をたたかい抜こう！
- 安全・命を守り抜くことを基軸に、会社施策に対し労働者の視点で「新たな施策に対する5本柱」を対置し、JR発足以降最大の変革に立ち向かい、責任追及やハラスメントを許さず、「職場からの挑戦」で健全な会社を取り戻そう！
- 軍事大国化を許さず、あらゆる戦争政策反対！脱原発！安易な赤字路線の廃止反対！JR東労組と連帯する仲間と共に、平和で安心して暮らせる社会を実現しよう！

小さな変化を掴んで仲間と共有し、議論し実践する、組織的な運動をつくり出し、JR東労組の強化・拡大を実現しよう！

## 確認された委員会宣言

### 委員会宣言 ~~(案)~~

JR東労組横浜地本は2月15日、かながわ労働プラザにおいて第30回定期委員会を開催し、2026 JR総連春闘勝利に向けて全組合員でたたかい抜くこと、過半数代表者選勝利に向けてたたかい抜くこと、安全で安心して働ける健全な会社を取り戻すためにブレずにたたかい抜くことを満場一致で確認した。

新たな施策の提案以降、会社が狙う「労働者の分断」「物言えぬ職場づくり」を明らかにして、ブレない組合員づくりを、全組合員との対話にこだわっておこなってきた。健全な会社を取り戻すたたかい、2025年度年末手当のたたかいと切れ目ない連続したたたかいで、一貫して会社の経営体質に向かってきたからこそ、年末手当の会社回答に対して「3ヶ月出て良かった」という声がある中、「過去最高の働き度に見合っていない」「年間6ヶ月に返っていない」と、会社回答にブレず組合員は強化された。2026 JR総連春闘スローガンの下、更なる組合員の強化と要求満額をかち取るために、職場からのたたかいを推し進めよう！

会社の懲罰的な姿勢が増している。横浜駅で発生した線路内落しと物拾得作業中に気管吸鳴を受けた事象では、当該組合員への懲罰的日勤は今も尚おこなわれている。当初は「Aさんだから」と個人の問題に切り縮め眼鏡で事象に向かえないところからのスタートであった。しかし、原因究明委員会や週一ミーティングの開催を通じて、組合員の転換を回ってきた。団体交渉では、運転士に対する抑止が「信号抑止」になっていないことを突きつけたことで、組合員からは「一部信号抑止に変わってきた」と変化を生み出してきた。また横浜地本がこの間、団体交渉でカスタマーハラスメント防止のため「名札の省略」を求め続けてきた結果、名札省略には至らなかったが、通達の変更という前進をかち取ることができた。これは、原因究明委員会や職場集会で組合員との議論を繰り返し、団体交渉へと繋げたJR東労組にしかできないものだ。社友会では安全で安心して働ける健全な会社を取り戻すことはできないこと、JR東労組の必要性を訴え、過半数代表者選挙の勝利をめざしていく。

2月8日、第51回衆議院議員選挙の投開票がおこなわれた。高市首相は、就任当初から労働時間の規制緩和・軍拡・安保3文書の改定を打ち出した。右傾化を加速させようとする政權にNOを突きつけるため、横浜地本推薦議員等懇談会メンバーの当選をめざしてきたが、野党は大きく議席を失い、衆議院で与党議席が3分の2を超え、憲法改正発議可能な条件となってしまった。

戦後80年以上が経過し、戦争を経験した方の話を直接聞ける機会が減らない状態となっている。新たな戦前と言われている現在において、今後も戦後を維持していけるかは、我々の行動にかかっている。労働者の命と利益と雇用を守る労働組合だからこそ、JR東労組は平和運動を取り組む。

鉄道は戦争で軍事利用され、鉄道労働者は戦争の加害者にも加担者にも被害者にもなり得る。だからこそ、憲法9条を守り、「あらゆる戦争政策」「鉄道の軍事利用」に反対していく。

定期大会以降で1名の組織拡大が実現した。その教訓は、会社に対して不満を持つ人に寄り添い、個人ではなく組織的な関わりによって、議論をつくりあげてきたことだ。具体的な行動を實踐し、共有し、横浜地本全体の力を結集し、新たな仲間とともに更なる組織強化・拡大を成し遂げていこうではないか！

以上、宣言する。

2026年2月15日  
東日本旅客鉄道労働組合  
横浜地方本部  
第30回定期委員会



伊藤委員

今のJR東日本は、過去のJALのように安全崩壊で倒産の危機にないかねない。東労組としてチェック機能を果たしていく必要性を発信し、円滑に議事を進めてくださった伊藤議長、ありがとうございました！